

病害虫発生予察情報予報第9号(12月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	並	 タマネギ べと病 一次感染株
	ボトリチス葉枯症	並	
	1. べと病 本圃での感染を防ぎ、一次感染株(越年罹病株)の発生を抑えるために、本圃定植前(定植5日前～前日)にジャストフィットフロアブルを、定植14日後頃にオロンディスウルトラSCを散布する。 2. 乾腐病 発生が増えるのは春期～貯蔵中であるが、発生を抑えるためには、定植前の防除対策が重要となる。地床育苗の苗は、定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は、定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。		
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	 ハダニ類
	うどんこ病	並	
	灰色かび病	並	
	アブラムシ類	やや少	
	1. ハダニ類 一部、多発生している圃場が認められる。薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。また、天敵カブリダニ剤を導入する場合は、天敵放飼前に天敵に影響の少ない薬剤を用いて、ハダニ類の寄生を0頭に抑える。 2. 灰色かび病 こまめな換気により、適正な湿度管理に努める。また、「いちごさん」では受粉後の花弁が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。プロアー等を用い定期的に花弁を除去する。 3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。(導入可能日数は防除のてびき P527～P531 参照)。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キュウリ	べと病	やや多	 退緑黄化病
	うどんこ病	並	
	褐斑病	やや少	
	アザミウマ類	多	
	コナジラミ類	多	
	1. タバココナジラミ：退緑黄化病、ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病 コナジラミ類やアザミウマ類の発生が多い。また、これらが媒介するウイルス病の発生がみられている。これらの虫を次作に持ち越さないため、薬剤防除を栽培後期まで継続するとともに、植え替え時には、施設内での株の枯死処理および施設密閉処理を十分な期間確保して実施する。(コナジラミ類についての詳細は、令和4年11月2日付け病虫害対策資料第10号参照)		
	2. べと病 発生がやや多い。抑制栽培で発生した圃場では、次作で早期から発生する可能性があるため、残さを圃場外で処分するとともに、予防防除を徹底する。		
トマト	葉かび病	やや少	 黄化葉巻病 黄化病
	灰色かび病	並	
	コナジラミ類	多	
	1. 葉かび病、灰色かび病 発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせる。		
	2. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 コナジラミ類の発生が多い。ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を徹底する。		
アスパラガス	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 本年は、褐斑病の発生が多く、また茎枯病の発生も一部圃場で多かった。これら病虫害を次作に持ち越さないため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。		
キク	白さび病	やや少	 ハダニ類
	アザミウマ類	やや少	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	並	
	ハモグリバエ類	並	
	チョウ目害虫	並	
	1. ハダニ類 圃場によっては発生が増加している。多発し高密度になると防除が困難であるため、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布し、低密度時からの防除を徹底する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji/00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（2 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 4 年 11 月 24 日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (7.8℃)	40	やや高い
降水量	30	40 (59.5 mm)	30	並

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 圃場、防除員 2 圃場
調査日：11月14～22日



定期調査の圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：**平年並**

(12月に発病することはまれであるが、苗床及び本圃で感染するリスクがある)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度 (本圃)

平成25年以降、発生株率・発生圃場率ともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。(±~+)

(図2参照)

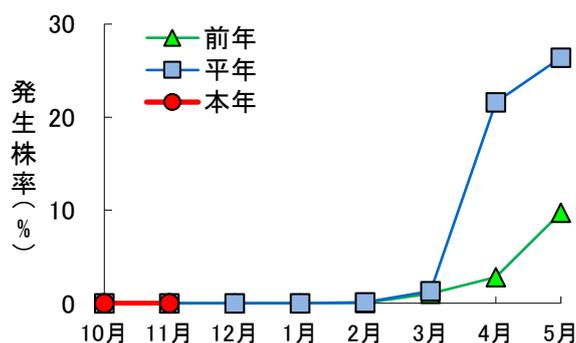


図1 タマネギでのべと病の発生推移

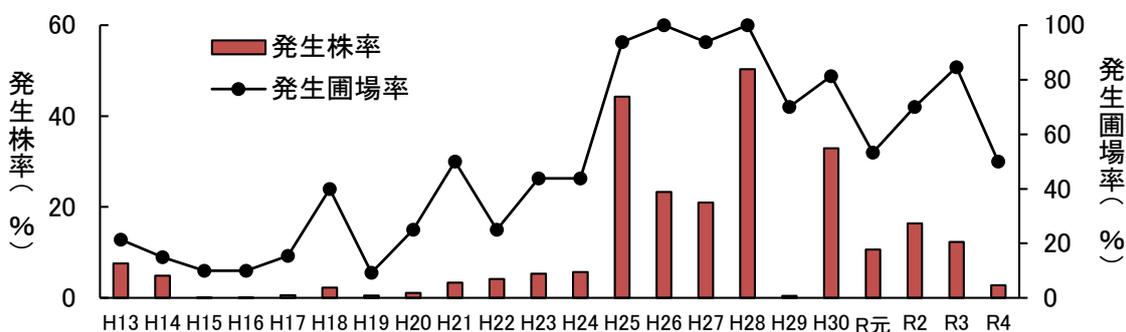


図2 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

(3) 12月の気象条件

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 購入苗や作業委託などで、ジャストフィットの散布を定植前に行うことが難しい場合は、定植直後に行う。定植日から日数が経過するにつれて効果が不安定になるため、直ちに行う。その場合も、定植14日後頃のオロンディスウルトラSCの散布は、同様に行う。

(2) その他については、特記事項を参照。

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：11 月 14～21 日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：16.5%（平年 11.5%、前年 10.5%）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

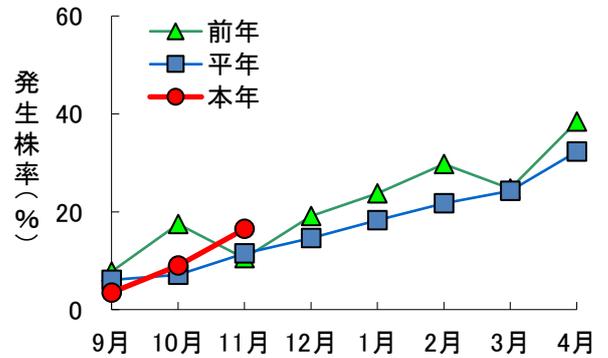


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：0.5%（平年 5.2%、前年 0.3%）

平年比：並（±）

(2) 12 月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 約 10～14 日間隔の薬剤防除を徹底する。

降水量は並で、並発生の条件（±）

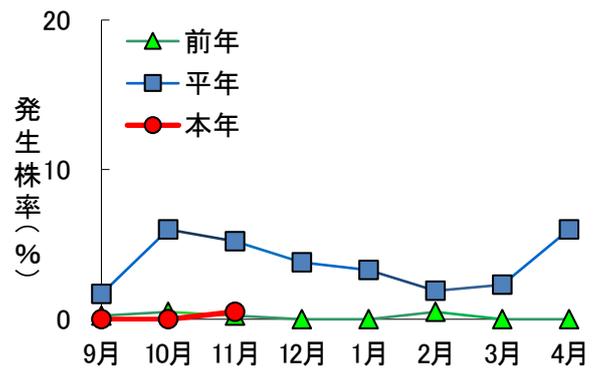


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場
調査日：11 月 14～17 日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：32.8% (平年22.1%、前年52.5%)

平年比：やや多 (±~+)

(2) 12月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

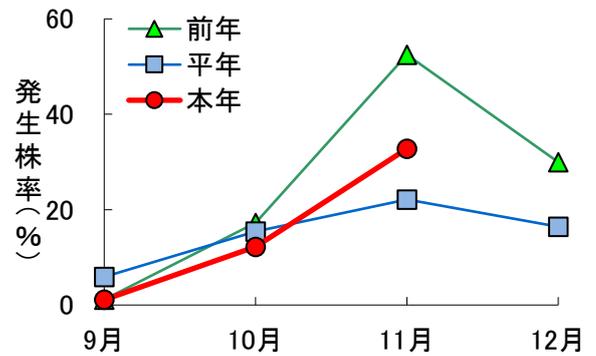


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：15.0% (平年4.8%、前年15.0%)

平年比：多 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

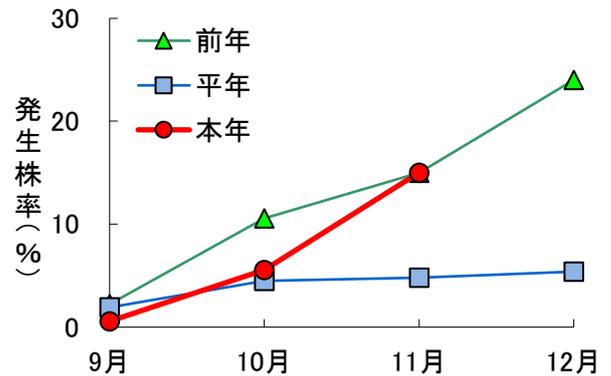


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：63.3% (平年11.9%、前年34.4%)

平年比：多 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

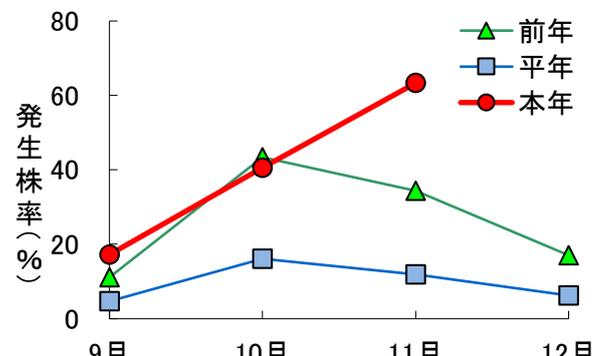


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6圃場、防除員4圃場

調査日：11月14~21日



定期調査圃場の様子

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 15.5% (平年 4.6%、前年 3.5%)

平年比: 多く(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

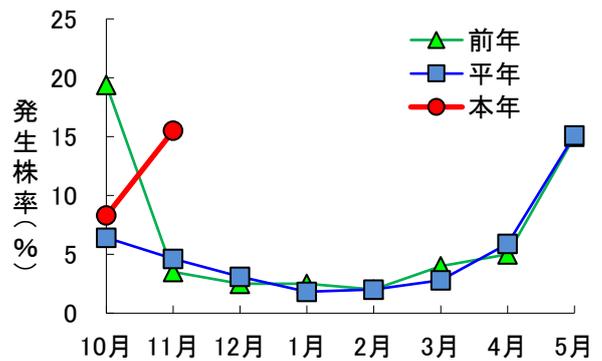


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日: 11月14~21日



1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0% (平年 1.7%、前年 0%)

平年比: やや少 (<~±)

(2) 12月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (<±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

定期調査圃場の様子

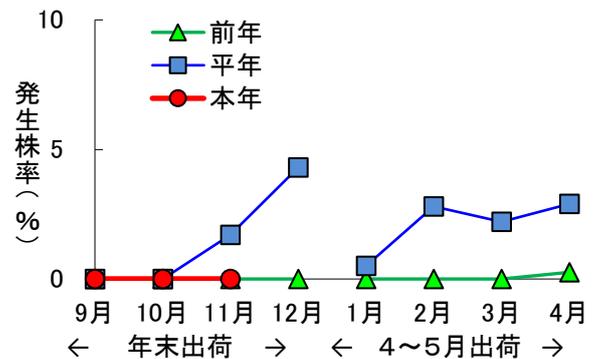


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クダヒアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 2.3% (平年 3.9%、前年 7.8%)

平年比: やや少 (<~±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。

本虫は、薬剤の到達しにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。

(2) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。

(3) ミカンキイロアザミウマは、キクえそ病 (TSW)・茎えそ病 (CSNV) のウイルスを媒介する。発生株を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫に対する防除を徹底する。

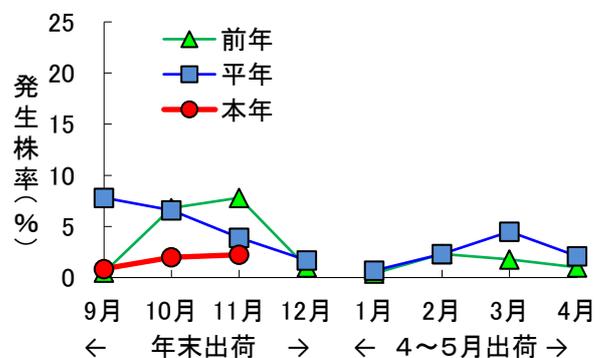


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査

発生株率：7.3%（平年4.8%、前年0%）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

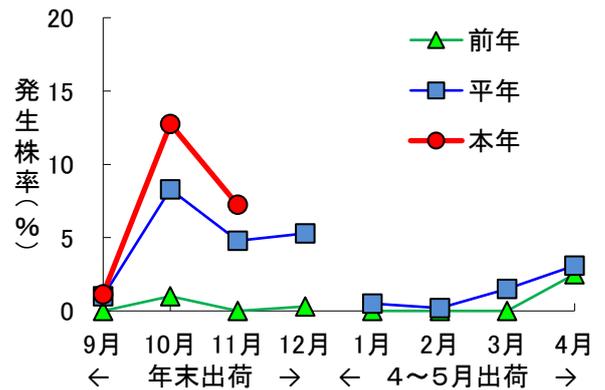


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

